



巡るたび、
出会う旅。
東北
2021.4.1～9.30

2022年1月26日
東北デスティネーションキャンペーン推進協議会
東日本旅客鉄道株式会社

東北デスティネーションキャンペーンの実績について

東北デスティネーションキャンペーン推進協議会では、JRグループと連携して、2021年4月から9月にかけて、東北デスティネーションキャンペーン（以下、「東北DC」）を開催しましたが、その実績をまとめましたのでお知らせします。

東日本大震災から10年という節目に、東北DCを契機にひとりでも多くの方に東北を訪れていただき、これまでの支援に対する感謝の気持ちをお伝えしたいという思いで開催しましたが、期間中は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、多くのイベントやセレモニーが中止となりました。

そのような状況下においても、感染防止対策を講じながら実施可能な事業を展開しました。6県が一体となって観光コンテンツを磨き上げ、「花」「自然・絶景」「酒・食」「復興」など様々なテーマでつないで訴求力を高め、交通広告媒体やデジタルツールを活用して情報発信を行いました。東北の魅力を東北域内にも訴求し、流動を生み出すことにも注力しました。東北を応援するTOHOKUサポーターの募集や様々な企業・団体との連携も進めました。

東北DCにより築き上げてきたこれらのレガシーを活用しながら、引き続き東北の観光振興に取り組んでまいります。

1 東北DCの開催概要

- (1) 期間
2021年4月1日（木）～9月30日（木）
- (2) 開催地域
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- (3) キャッチコピー
「巡るたび、出会う旅。東北」
「VISIT TOHOKU, FIND JAPAN.」
- (4) 実施主体
東北デスティネーションキャンペーン推進協議会
JRグループ

2 実施結果

(1) 延べ宿泊者数

1,361 万人泊（※2021 年 4 月～9 月の東北 6 県の合計値）

いち早く観光需要を回復させるため、2019 年の実績（2,307 万人泊）に近づけることを目標としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2019 年実績比で 59%にとどまりました。

(2) 東北 DC 開催に伴う経済波及効果

約 185 億円

※東北 6 県の合計値となります。

※詳細は別紙参照。

3 各コンテンツの実績

(1) 特別企画

① 6 県実績

202 件（※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で内容が変更または中止となったものを含む）

東北 DC 期間中にしか体験できない企画や期間限定のイベントを特別企画として実施しました。

② デジタル周遊スタンプラリー&クーポン

参加者数 5,514 名

取得スタンプ数 128,348 個

東北 6 県を舞台に、スマートフォンを利用して参加できるスタンプラリーを実施しました。スタンプ対象スポットは約 1,300 箇所、東北各県を巡るほど抽選への応募のチャンスが増えるなど、周遊を促す仕組みを取り入れました。また、消費拡大を目的に、観光施設や道の駅など約 1,000 箇所利用できるクーポンも提供しました。

③ TOHOKU SALAD—とうほくサラダ—

参画施設数 202 店舗

全農東北プロジェクトと協力し、東北の旬な食材を使用したサラダなどを提供する企画を展開しました。食材を通じて、東北の魅力を発信するとともに、東北の食材への理解を促し、消費拡大につなげることを目指しました。

(2) デジタル観光素材集

登録件数 約 4,500 件

ページビュー (PV) 数 約 167 万 PV

東北 6 県の観光コンテンツをデータベース化し、東北 DC ウェブサイトで紹介。旅行会社における商品造成などにご活用いただいたほか、多くの皆様にご覧されました。

デジタル観光素材集は、今後にご活用いただくために、(一社)東北観光推進機構のウェブサイト「旅東北」内で紹介をしていきます。

4 プロモーション実績

(1) 東北 DC ウェブサイト

ページビュー数 約 308 万 PV (※サイトオープンから 9 月 30 日までの累計)

デジタルツールを活用した情報発信の拠点として、ウェブサイトから様々な東北の魅力を発信しました。

(2) 東北 PR 局

投稿件数 40,088 件

(※「#東北 PR 局」「#東北 DC」「#東北デスティネーションキャンペーン」の合計値)

東北にお住まいの方が、おすすめの観光情報をInstagramに「#東北 PR 局」をつけて投稿し、東北の魅力を発信する企画を展開しました。

(3) TOHOKU サポーター

① Welcome to TOHOKU 隊 (東北 6 県にお住まいの方が対象)

登録件数 2,909 件、缶バッジ配付数 100,099 個

② TOHOKU Fan (東北 6 県以外にお住まいの方が対象)

登録件数 2,255 件

※それぞれ団体、個人の合計。

東北域内外において、それぞれの取り組みで東北 DC を応援していただく「TOHOKU サポーター」を募集し、多くの企業・団体や個人の皆様にご登録いただきました。

東北 DC 終了後は、持続可能な東北観光を実現するために、2021 年 12 月に(一社)東北観光推進機構が設立した会員組織「TOHOKU Fan Club」(<https://tohokufanclub.com/>)をご案内し、引き続き東北の応援をお願いしています。

(4) ポスター、ガイドブック

制作部数 ポスター 約 32,000 枚

ガイドブック 152 万部 (※春、夏版の合計)

福島県郡山市生まれのイラストレーター 辰巳菜穂さんに、東北固有の価値をイラストで表現していただき、全国の JR の駅などにポスターとガイドブックを掲出しました。

また、ガイドブックに掲載した二次元コードから、ウェブサイトアクセスしていただくことで、より詳しい情報を得られるようにしました。

5 JR 東日本の取り組みに関する実績

(1) お先にトクだ値スペシャル

発売席数 約 45 万席

東北 DC の開催にあたり、首都圏のお客さまを東北へ送客するため「えきねっと」の目玉商品である「お先にトクだ値スペシャル」を半年間設定しました。多くのお客さまにご利用いただき、期間中合計 45 万席を発売しました。今後もこうしたおトクなきっぷの設定などを通じて、東北への流動促進を図ってまいります。

(2) 周遊列車・観光列車の運行

運行数 約 80 企画

延べ乗車人数 約 2 万人

東北 DC のテーマ（花、自然・絶景、酒・食、復興など）に合わせた周遊列車や各路線の新しい鉄道の旅を紹介する観光列車約 130 企画を計画し、うち約 80 企画を運行、延べ約 2 万人のお客さまにご乗車いただきました。

(3) TOHOKU MaaS

登録会員数 約 5,800 名

チケット発売枚数 交通チケット：約 3,900 枚、アクティビティチケット：約 2,100 枚

東北 DC に合わせ、東北各地の自治体や交通・観光事業者の協力をいただきながら、観光型 MaaS「TOHOKU MaaS」を展開しました。コロナ禍でも安心・安全なご旅行をお楽しみいただくため、MaaS の特性を活かした電子チケットなどの事前購入を通じ、ウィズコロナにおけるキャッシュレス推進に努めました。なお、東北 DC 終了後も引き続き「TOHOKU MaaS」をご提供しています。

(4) Suica 電子マネー

新規に導入いただいた加盟店 約 1 万店

東北エリアをご利用されるお客さまの利便性向上や、安心かつ衛生的にご利用いただくことを目的に、観光・宿泊施設、土産店・飲食店、タクシーなどを中心に、地域のクレジットカード会社および金融機関と協力し、東北各県における Suica 電子マネーなどのキャッシュレス環境の整備を推進しました。その結果、1 万店を超える加盟店に導入いただきました。今後も、地域連携 IC カードの導入エリアをはじめ、東北の各地域と連携して、ご旅行でも日常でも、Suica 電子マネーをご利用いただけるよう、さらなるキャッシュレス環境の整備を進めてまいります。

(5) 非接触 AI 案内システム

設置台数 4 駅 19 台

アクセス数 約 142,000 件

東北 DC に合わせ、駅周辺や周辺施設、乗換案内など、お客さまの問い合わせに 4 か国語でお答えする非接触 AI 案内システムを仙台駅、盛岡駅、新青森駅、秋田駅に計 19 台設置し、期間中に約 142,000 アクセスの利用がありました。本 AI 案内システムについては、今回の 4 駅のほか、高輪ゲートウェイ駅、海浜幕張駅に設置しています。引き続き他駅へも積極的に導入していき、今回の知見をもとにお客さまサービス向上、DX 推進に努めてまいります。

2022年1月26日

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社
 あおもり創生パートナーズ株式会社
 一般財団法人岩手経済研究所
 一般財団法人秋田経済研究所
 株式会社山形銀行やまぎん情報開発研究所
 一般財団法人とうほう地域総合研究所

東北デスティネーションキャンペーン開催に伴う経済波及効果の推計結果について

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社は、このたび、東北デスティネーションキャンペーン推進協議会から委託を受け、あおもり創生パートナーズ株式会社、一般財団法人岩手経済研究所、一般財団法人秋田経済研究所、株式会社山形銀行やまぎん情報開発研究所および一般財団法人とうほう地域総合研究所と共同で、東北デスティネーションキャンペーン（以下「東北DC」という。）開催に伴う経済波及効果を推計しましたので、お知らせします。

今回の東北DCは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた緊急事態宣言等の発出により人流抑制の影響を大きく受けたため、開催期間中の観光入込客数はコロナ禍前の水準に回復しない状況が続きました。そのため、本推計にあたっては、コロナ禍前の水準と比較した東北エリアの観光入込客数の減少率が東北DCを開催していない東北エリア以外の地域よりも緩やかであったことに着目し、当該減少抑制分の観光入込客数に対応する観光消費額を東北DC開催に伴う経済的な効果と見做し推計を行いました。

本推計における東北各県の経済波及効果は図表1のとおりで、東北6県の単純合計値は185億円（減少が抑制された生産額）となりました。

なお、推計方法と詳細な推計結果については、次ページ以降に掲載しています。

図表1 東北DC開催に伴う経済波及効果

青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東北6県 単純合計値※
約17億円	約55億円	約11億円	約47億円	約43億円	約13億円	約185億円

※ 本推計にあたっては、推計に必要な東北地方全体の産業連関表が整備されていないため、東北6県それぞれの産業連関表に基づき推計した各県の経済波及効果の単純合計値を東北DC開催に伴う経済波及効果としている。

また、単位未満の四捨五入により合計が一致しない。

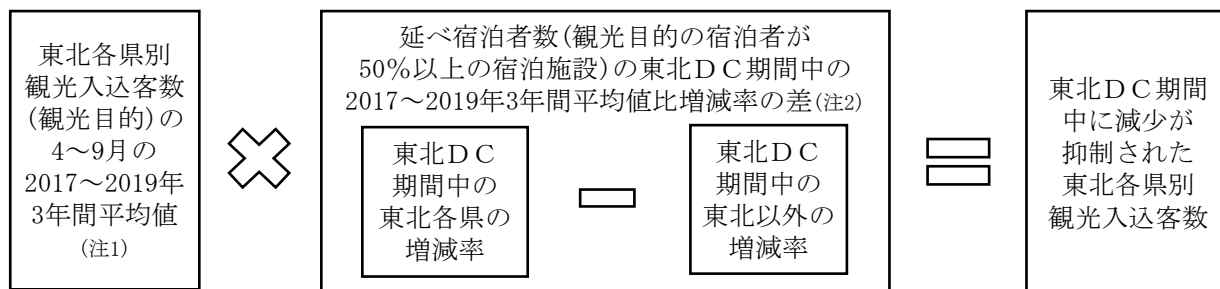
1. 減少が抑制された観光入込客数の推計

(1) 推計方法

東北DC期間中の観光入込客数が未公表であることから、観光入込客数と宿泊者数の動きが連動するものと仮定し、公表が早い宿泊者数の動きに基づき減少が抑制された観光入込客数を推計しました。

具体的な推計方法は図表2のとおりです。

図表2 減少が抑制された観光入込客数の推計方法



(注1)使用統計：「共通基準による観光入込客統計」(観光庁)

(注2)使用統計：「宿泊旅行統計調査」(観光庁)

(2) 推計結果

上記推計方法に基づき、東北DC開催に伴い減少が抑制された東北各県の観光入込客数を図表3のとおり推計しました。

図表3 東北各県の減少が抑制された観光入込客数

	東北DC期間(4~9月)の延べ宿泊者数 (観光目的の宿泊者が50%以上の宿泊施設) (人泊)			東北以外の地域との増減率の差 ^D	2017~2019年における4~9月の観光入込客数 (観光目的)3年間平均値 ^E (千人回)	減少が抑制された観光入込客数 (千人回) (^D × ^E)※
	2017~2019年の3年間平均値 ^A	2021年 ^B	増減率 ^C (^B - ^A)/ ^A			
青森県	961,843	440,520	-54.2%	3.0	7,037	211
岩手県	1,390,687	770,730	-44.6%	12.6	5,499	694
宮城県	1,911,943	834,830	-56.3%	0.9	12,859	111
秋田県	859,570	484,360	-43.7%	13.5	6,798	921
山形県	1,360,647	670,220	-50.7%	6.5	10,541	681
福島県	2,684,707	1,180,480	-56.0%	1.2	12,695	148
東北以外の地域	141,335,583	60,493,040	-57.2%	—	—	—

※ 単位未満による計算のため、上記に表記されている数値による計算結果と一致しない場合がある。

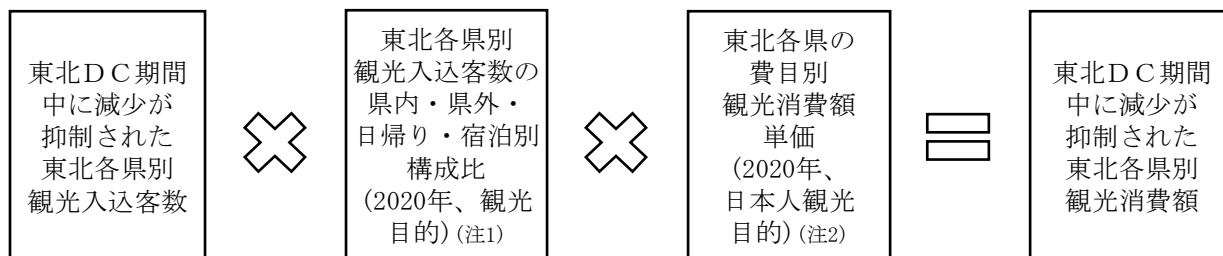
2. 減少が抑制された観光消費額の推計

(1) 推計方法

上記1で推計した減少が抑制された観光入込客数を県内・県外・日帰り・宿泊の4パターンに分類のうえ、観光消費額単価を掛け合わせ、減少が抑制された観光消費額を推計しました。

具体的な推計方法は図表4のとおりです。

図表4 減少が抑制された観光消費額の推計方法



(注1)使用統計：「共通基準による観光入込客統計」(観光庁)

(注2)使用統計：「共通基準による観光入込客統計」(観光庁)、「旅行・観光消費動向調査」(観光庁)

(2) 推計結果

上記推計方法に基づき、東北DC開催に伴い減少が抑制された東北各県の観光消費額を図表5のとおり推計しました。

図表5 東北各県の減少が抑制された観光消費額

(百万円)

	減少が抑制された観光消費額				計※
	県内客		県外客		
	日帰り客	宿泊客	日帰り客	宿泊客	
青森県	600	156	293	588	1,637
岩手県	1,270	993	805	2,294	5,362
宮城県	446	164	207	244	1,060
秋田県	1,757	808	1,134	1,384	5,084
山形県	993	542	1,402	1,596	4,533
福島県	263	179	424	408	1,274

※ 単位未満の四捨五入により合計が一致しない場合がある。

3. 東北各県の経済波及効果推計結果

上記2で推計した、減少が抑制された東北各県の観光消費額を最終需要額と見做し、これをベースに減少が抑制された各県の生産額（直接効果）を推計しました。

さらに、この直接効果により各産業への原材料等の投入の減少が抑制されるために生じる生産減少抑制額（一次間接波及効果）、直接効果および一次間接波及効果に伴い雇用者所得と個人消費の減少が抑制されるために生じる生産減少抑制額（二次間接波及効果）を、東北各県の平成27年産業連関表により推計しました。

これらの直接効果、間接波及効果を足し合わせた、東北各県の経済波及効果（減少が抑制された生産額）は図表6のとおりとなります。

図表6 東北各県の経済波及効果 (百万円)

	直接効果A	一次間接波及効果B	二次間接波及効果C	経済波及効果D (A+B+C) ※
青 森 県	1,132	372	212	1,716
岩 手 県	3,630	1,143	705	5,478
宮 城 県	732	233	146	1,111
秋 田 県	3,109	1,021	525	4,654
山 形 県	2,929	839	490	4,258
福 島 県	875	276	156	1,308
東北6県計	12,407	3,884	2,234	18,525

※ 単位未満の四捨五入により合計が一致しない場合がある。

以 上